

石炭酸ノ結核菌ニ對スル殺菌力ハ強「アルカリ」ヲ加ヘ石炭酸ノ一部結合スルト作用減弱ス是レ只ダ遊離石炭酸ニ由ルニ過ギズ然ルニ「アルカリ」製品タル「クレゾール」、「クロールメタンクレゾール」ノ作用強キコトハ「フヘノール」ヲ排出スル作用ニ基クト云ヘリ斯ル製品ハ其ノ排出状態ニ從テ殺菌作用ニ強強アリ故ニ結核菌ニ對スル殺菌作用ハ此ノ「フヘノール」排出作用ニ基因スルモノナリト。(渡邊)

## 談叢

### 震災ト東京市臨時救療事業ノ一端

田澤 錄 二

大正十二年九月一日ノ午食時ヲ界トシテ我々ノ境遇ハ忽然トシテ一變シタ。強震ニ續テ延焼三日ニ互リ、東京市ノ樞要區域ハ全ク焦土ト化シテ了ツタ。

本結核病學會事務所及ビ東京市療養所ノ消息ニ就テモ會員諸兄ヨリ種々御親切ナル御尋子及ビ御見舞ヲ受ケタコトハ誠ニ感謝ニ堪エナイ處デアルガ、幸ニシテ此兩者ハ火災ヲ免レ特ニ本會ノ物品ニハ何等ノ破損モナカツタノデ茲ニ會員諸君ノ御安心ヲ請フテ置ク。

余ハ本號ニ於テハ前號ノ繼續トシテ米國視察談ヲ掲グル豫定デアツタガ、茅屋ハ震災ノ第一日ノ初メニ於テ甚ダシキ烈風ノ間ニ全焼シ、折角附近ノ避難場へ擔ギ出シタル書類マデ灰燼ニ歸シテ了ヒ、ソレト同時ニ我々ノ仕事モ亦第一日ノ午後カラ全ク一變シテ、東京市ノ臨時救療事業以外ニハ何事ヲモ顧ミル餘裕ヲ得ナイ身トナツタノデ、米國視察談ハ後ノ號ニ讓ルコト、シ、茲ニハ東京市ノ臨時救療事業

ニ就キ、我々療養所員ノ係ハツタ方面ノコトヲ簡單ニ述ベテ置ク、何等カノ御參考ニナレバ幸甚ノ至リデアル。

東京市療養所ニ於テハ震災中ニ幾度カ火災ノ危険ニ瀕シタノデアルガ、遂ニ悉ク之ヲ鎮火シ得タコトハ余ノ何ヨリ心嬉シク感じテ居ル所デアル、就中藥品倉庫ニ於テハ棚カラ墜落シタ薬瓶ヨリ發火スルコト再度ニ及ンダノデアルガ、所員數十名調薬員ニ力ヲ協ハセテ消火ニ努メ、藥品ヨリ發スル強烈ナル瓦斯ト煙ノ間ニ於テ、鼻目咽喉等ヲ刺戟サレテ咳嗽嘔吐等ニ苦シミツ、モ決死的ノ努力ヲナシ、辛フジテ鎮火スルコトヲ得タ、又汽罐場デハ消毒最中ノコト、テ全力汽釀中上下動ノタメ死重安全瓣脱落シテ蒸氣ハ大爆音ヲ發シ、家屋ノ一部ヲ破壊シテ屋上ニ吹キ拔キ、續テ縱横ノ震動ニヨツテ「パイプ」ノ接續部ハ離レ、汽罐ノ煉瓦捲ハ崩壞シテ焰路破裂シ、爲メニ燃焼中ノ火焰ハ室内ニ立上リ、汽罐ノ破裂ト火災ノ危険ニ瀕シタリシモ尙震動激シクシテ危険益々迫リ、其物凄キ光景ハ實ニ全所内ヲ震駭セシメタノデアルガ、火夫小林、野口、大平三氏ハ震動中ニモ其破損シタ家屋ノ中ニ止ツテ燄々タル石炭全部ヲ搔キ出シ消火シタタメ幸ニシテ事無キヲ得タ。患者ノ身體ニ就テモ看護婦ガ震動中病舎内へ飛入りテハ重症者ヲ背負ヒ出シ、又ハ擔架

ニテ擔ギ出シ來レル大活動ト、輕症者ノ非常ナル助力、患者一般ノ慎重ナル注意等ニヨツテ數日間ノ避難モ露臥モ極メテ順序好ク運ビ、九月一日ノ在所患者四百六十三名ノ中自分デ屋外ニ飛ビ出シタル患者ノ一人ガ足關節ヲ挫キタル外ニハ一人ノ輕傷者スラモ出サナカッタコトハ固ヨリ余ガ禁ジ難キ祝慶ノ念ヲ覺ユル所デアツテ、不思議ナコトハ墜落セル壁ノ下敷トナツタ患者マデモ無事デアツタ、此間醫員諸君ヤ事務員諸君等ノ指揮監督宜シキヲ得タコト、心勞ノ大デアツタコトハ言フマデモナイ、爾來今日マデ所員諸君ガ患者ノ手當テ監督、食事ノ配給、竝ニ到ル所非常ナ毀損ヲ來シタル家屋ノ修繕等ニ不眠不休ノ努力ヲ拂ツタコトハ筆紙ニ盡シ得ル所デハナイノデアルガ、適當ノ機會ト考ヘテ其一端ヲ茲ニ記シ余ガ内心ノ大ナル感謝ヲ表ハシテ置ク。以上ノ實情ヲ述ブルニ當ツテ特ニ氣附キタル點ヲ述ベルト、第一ニハ藥局ニテモ試験室ニテモ發火シ易キ藥品ハ平常二段以上ノ棚ニ置カズ、ナルベク床上ニ竝ベ置キ貯藏品ノ如キハ地下室ノ如キ所ニ特別ノ裝置ヲシテ入レ置クヲ安全トスルコトデアル。

尙今回ノ經驗ニ依リ特ニ必要ト認メラレタル設備トシテハ電燈ノ絶タレタル時ニ時ケル點燈用設備、斷水時ノ給水設

備、交通機關、露營用天幕及ビ小クトモ耐震耐火式ノ倉庫  
其他出働用トシテ携帶用醫板竝ニ出動員用ノ徽章、提灯等  
ガ問題トナツタ、又平常職員、特ニ看護婦ニ對シテ精神上  
竝ニ技能ノ上ノ訓練ヲ怠ラナイコトハ言フ迄モナク、極メ  
テ重要デアルコトガ、斯ル際ニハ一層痛切ニ感ジラレルガ、  
患者ニ公德心ノ教育ヲ施コシオクコトモ肺結核患者ナドニ  
就テハ混亂ノ際ニハ特ニ其效果ノ認メラル、モノデアル。  
本療養所員ノ所外ニ於ケル救療事業トシテハ、震災第一日  
ノ午後衛生課ト合議シテ直ニ本所ノ自動車ニ東京市救護班  
ノ大札ヲ掲ゲテ市内ニ出動シ、二重橋前ヨリ火焰ノ間ヲ各  
所ニ奔走シテ遂ニ小石川植物園デ、附近ノ博文館工場ノ倒  
壞シテ下敷トナツタ職工百五十名ノ掘リ出サル、ニ從テ多  
數ノ負傷者ニ手當ヲ施セル以來、衛生課ノ指揮ノマ、ニ連  
日救護班トシテ駈ケ回ツタノデアルガ、之ニ就テ切ニ感ジ  
タコトハ相當ナ大病院特ニ結核療養所ノ如キ懸ケ離レタ土  
地ニ建テラレタ病院ニ於テハ、自分ノ手許ニ自動車ヲ所有  
シテ居ルコトガ極メテ必要ト思ハル、コトデアル。  
之ハ言フニモ及バナイ當然ノ事ノヤウデアルガ、本所ノ患  
者輸送用ノ自動車ニ就テモ種々ナ議ガ出タノヲ、ヤット一  
稟買込ミ得ラレ、衛生課ノ好意デ遂ニ本所ノ手許へ所屬セ

シメオカレタ譯デアリ、又市内ノ他ノ大病院ニ於テハ自動  
車ヲ所有シテ居タモノガ幾ツアルカト危ブマレルヤウナ狀  
況デアルカラ茲ニ一言シテ置ク次第デアル。

如上ノ救護班ノ外、東京市療養所ノ出動員ハ東京市ノ臨時  
救療病院ニ對シテモ命ノマ、ニ何デモ努力スルトイフコト  
ニ決心シテ、第一ニ東京市青山臨時救療所ノ開所當時ヲ擔  
當シタノデアルガ、之レハ後ニ北海道大學ノ應援隊ニ依頼  
シ、目下ハ市ノ臨時醫員ガ局ニ當ラレ、余ガ責任ダケ負フ  
テ居ルノデアル、又新設ノ東京市大塚臨時救療所ハ本所員  
ノ手ニ依テ開始サレ目下溝淵醫長ヤ、松尾副婦長ガ他ノ臨  
時所員ト共ニ奮闘シテ居ル、又東京市ガ代表的臨時救療病  
院トシテ主力ヲ盡シテ居ル東京市池ノ端臨時救療所モ余ニ  
統轄ヲ命ゼラレタノデ光榮ト考ヘテ責ニ當ツテ居ル、目下  
千餘ノ收容力ヲ有シ、内外科、産科ノ患者合計九百名ニ垂  
トシテ居ル、同所ニ避難セル下谷郵便局ノ立退キ次第更ニ  
數百名ヲ増ス豫定デアル。

之レ等臨時病院ノ仕事ノ中茲ニ特ニ御報告シテ置キタイト  
思フ點ハ、今回ノ救療事業ノ特徴ノ一ツトマデ考ヘテ、肺  
結核患者ノ隔離ヲ勵行スル様努力シタ一事デアル、ソシテ  
東京市療養所デハ今ヤ急造ノ「バラック」ヲ建設シテ可及的

收容力ヲ増スコト、ナツテ居ル。

余ガ米國旅行中ニ於テモ、普通病院ノ普通病舎ニ肺結核患者ノ入院サセテアル所ナドハ全ク見受ケラレヌ、該地ニ開業シテ居ル日本人ノ醫師諸君モ「日本デハソコトガアリマスカ米國デハソコトナ事ヲスレバ罰セラレルデアラウ」ト驚異ノ言ヲ吐カル、ヲ聽イタ。故ニ今回ハ少シニテモ理想ノ實現ヲト考ヘタノデアルガ、恰度又市内ノ各病院若クハ各救護所ニ於テハ多數ノ傷病者ヲ狹隘ノ場所ニ收容セル爲ニ肺結核患者ノ引取ヲ依頼サレル向ガ甚ダ多ク、又山ノ手ノ住宅ニ知人、親戚ノ罹災者數家族ヲ同居セシメ居ル所ナドヨリモ同様ノ願出デガ頻々ト到著スルノデ、東京市療養所ニ於テハドンナ難儀ヲシテモ場所ノ許ス限リハ之ヲ收容シヤウト努メ、同年ノ豫算一日平均四百五十名ニ對シ目下六百數十名ノ患者ヲ容レ遠藤副所長以下所員諸氏ハ手不足ノ中ニ極度ノ努力ヲ續ケテ居リ、矢部顧問ニモ毎日多大ノ御骨折ヲ懸ケテ居ル、斯ル際ニ於テ肺結核患者ノ收容ニ就テ特ニ問題トナル者ハ運搬ノ方法デアツテ目下患者ハナルベク一度池ノ端臨時救護所へ集メソレヨリ自動車デ本療養所へ送ル事ニシテ居ル、今日十月末日迄ニ收容セル罹災結核患者ハ三百四十五名ニ及ビ多クハ重症ノ患者デアル。

本療養所ノ假増築ニ就テハ余モ再三當局ニ説ク所アリ遠藤君及ビ偶然ノ機會ヲ得タル本會ノ坂口幹事モ之ニ援助セラレ、澄川衛生課長亦斷然決心セラル、所アツテ遂ニ肺結核患者ノ收容「バラック」建設ガ急性傳染病者ノソレト同様ニ罹災患者救護事業ノ一ツヘ加ヘラル、ニ至ツタ。之ハ從來ノ日本人一般ノ考方カラ見ルト確カニ一段ノ進歩デアルト思ハレル。今回肺結核患者ノ數ガ必ズシモ増加シナカツタモノト假定スルモ療養ノ途ヲ失ヒタル患者ノ増加シタルベキコトハ明カデアアルガ患者ノ實數ニ於テモ戰爭中ノ歐洲ト同様ニ増加シタルベキコトハ多言ヲ要セズシテ明カナコトデアル、例ヘバ吾々ノ診察セシ患者ノ中ニ於テモ露臥ヤ自警團ノ仕事ニヨツテノ喘息ヲ發シ其ノ後ソレハ治シタルモ熱ヤ盜汗ヤ咳嗽、喀痰ガ甚ダシクナツテ來タナドトイフモノ又ハ寒冒ノ後ニ云々ト言フモノナドハ勿論甚ダ多數デアルカラ、統計的ニハマダ分ラナイガ結核療養所擴張ノ必要ヲ認ムルニハ充分デアルト思フ。

急造ノ「バラック」ノ建テ方ニ就テモ結核療養所トシテハ又種々特別ノ注文ガアリ、市當局モ最大ノ好意ヲ表シ居ラルルコトデアアルカラ、幾分ナリトモ簡易療養所トシテノ理想ガ實現サレルヤウニト希望シテ居ルノデアル。

今回ノ天災ニ對シテ、内地各地方及ビ海外諸外國カラ厚キ同情ニヨリ多大ノ寄贈品ヲ送ラレタコトハ誠ニ感謝ニ堪ヘヌコトデアアルガ、殊ニ頃日米國ヨリ到着シタ天幕、輕便寢臺毛布等ハ實ニ莫大ナル數量デアアル、此天幕ヲ得テ氣ノ附タコトハ豫テ本療養所ガ木造病舎デアアル上ニ市内ヨリ懸ケ離レ居ルヲ以テ、火災時等ノ患者避難ニ非常ナル心配ヲシテ居タ問題ガ解決シタ様ニ思ハレテ安堵セラル、ニ至ツタ、コレハ他ノ療養所ニモ御參考ニナルコトデアアルカト思ハレル。直接療養所ノ問題デハナイガ、本所ト關係ヲ保ツテ救濟事業ニ當ラントシテ居ラレルタブン嬢主唱ノ「ガ―デンホーム」ニ於テモ關屋宮内次官夫人ガ本所ニ隣接セル敷地ノ視察ヲセラル、等着々歩ヲ進メテ居ラル、ノデアアルカラ、本所員モ亦之レヲ援助シテ、小サクトモ美ハシク有益ナル社會事業ノ芽生ヘガ今回ノ天災ニ依テ蹂躪サレナイヤウニト祈テ居ル。

終ニ本結核病學會トハ直接ノ關係ハナイノデアアルガ東京市臨時救療事業ノ模様ヤ罹災者ニ對シ 皇室ニ於テ大御心ヲ注ガセラル、實情ハ會員諸君ニ於テモ定メシ知りタク思ハル、コト、考フルノデアアルカラ茲ニ記念トシテ 皇后陛下東京市池ノ端臨時救療所ヘ行啓遊バサレタル當時ノ記録ヲ

掲ゲテ置クコト、スル。

## 皇后陛下行啓記録

大正十二年九月二十九日は東京市池ノ端臨時救療所に取  
りては永久忘るゝ事の出来ない光榮ある記念日でありま  
す、それは此日 皇后陛下の行啓を辱ふし畏くも親しく  
病人の模様を御覽遊ばされて數々の有難き御言葉を賜は  
つたからであります、本所は急造の臨時病院であります  
から、此光榮に對し市長以下當局者の心勞致しました點  
も少くなかつたのでありますが、幸に大過なきを得まし  
た事は關係者一同の何より心嬉しく感ずる所でありま  
す。此日職員諸君が極めて誠意誠心より御送迎申上げ患  
者諸君も亦極めて靜肅に有難く感謝の情を表はされまし  
た事は定めし 陛下に於かされても御満足に思召された  
こと、拜察致され、茲に私より皆さんに厚く御禮を申上  
げます。

却説 國母陛下には本所内御巡視中殊に御心を注がせら  
れ、御眼に映する一々のものに就て皆有難い御言葉を賜  
はり一同深く肝に銘じました。此御言葉は皆さんの齊し  
く知りたいと思はるゝ處と思ひますから、只今私の耳に

残りしました點を左に掲げておしらせ致します。

先づ玄關より内科の前館及下谷假郵便局の間に於て永田市長より本所の大體に就て御説明申し上げられ、博覽會外國館の跡が焼け残つて居たのを借りて急に取片附けて病院とした事から、下谷郵便局が焼けて一時此所に引越して業務を執つて居るが近い中他に移轉して茲も病室にする筈と云ふ事などまで述べられました（患者數職員數等は別表の通り）又市長より收容患者は殆ど皆自分の家を焼出されたもので、此救療所を預つて居る田澤所長も自分の家を焼出されましたが、開所以前から毎日茲に出て勤務して居ますと申し上げられました處、

陛下は「それは御氣の毒な事で」と仰せられて私の方を一寸御振り向き遊ばされましたそうですが、私が少し後ろの方に居ましたので其儘に玉歩を進まされましたのであります。内科病室の入口に於て御立止まり在らせられ、「茲にはどう云ふ患者が居ます」との初めての御下問がありましたので市長は私を所長として紹介せられ私より之れは内科の病室でありまして病氣の種類は色々のものが一緒になつて居りますと御答へ申しあげました。

陛下には尙もくはしく御聽取り遊ばされたきやうの御様

子であらせられました故、外科をあちらの方に置きこちらに内科の患者を置いてありますと申添へました。陛下は又「熱のある患者もありませんか」と御下問遊ばされましたのでそれに對し、熱のあるものもありますが、急性傳染病と肺結核と精神病の患者は他へ轉院させることにしてありますと御答へ申上りました。次で寢臺を御覽になつて「布団がないのですか」との御言葉がありましたに對し、逆の上に毛布が敷いてありますと御答へ致しました處「からだ痛いでせうね」との御言葉を賜はりました。小兒患者森武三（四歲）がお目に止りましたので、侍従の方は直ちに本人に尋ねられて、小供が病氣で父親が附添に來て居るのだと申上りますと述べられました。

續て室の様子を御覽になつて「雨の日には寒いでせう」との御言葉がありましたので、私に於ても防寒の事を持つてに心配して居る旨御答申上りました。患者林勘治郎の平伏して居る頭に膏藥の貼つてあるのを御覽になつて「之れを何ふしたのですか」とのお尋ねがありましたので、之れは主なる病氣ではありませんかと申上げて眺めて居りました故「大した事はないのですか」と仰せられましたから、左様であります此邊は一帶に脚氣の患者を置いてあ

りますと申し上げました處、「脚氣ですか」この御言葉がありました。

手製の一人用寢臺に寐て居る患者を御覽あらせられて、「之れはどう云ふ病人ですか」この御下問がありましたので、意識が溷濁して居たり不潔になつたりするものを別にしましたと御答へ申しあげました。

内科本館の入口で附添の婦人が小兒の患者田中トキ（六才）を抱いて居るのが御眼に止りましたので、侍従の方が尋ねられました處、附添人はこの兒の父親も婆さんも死んだと云ふことを述べました。次で内科本館の陳列臺を寢臺にした模様を御覽になつて「斯うなつて居るのですか、どうなつて居るのかと思つて居ました」この御言葉がありましたので、豫じめ本所の噂を聞こし召されて在らせられたものと恐察致しました。市長より去る十三日清水谷侍従を御使者として御差遣に預りしことを御禮申上げられました處、陛下には御會釋あらせられました。尙市長より十九日には竹田宮妃殿下各宮家を御代表遊ばされて御慰問下され、患者一同へ御下賜品のあつたことを御報告申上げられました。

此日 國母陛下御行啓の二時間前に各宮家より患者一同

へ賜りました衣類（九百七點の中）五百點と枕百二十二個が内科本館の中央に山の如くに積まれてありましたので、市長は立止りて之れは本日各宮家から患者一同へ賜はりましたと御報告申上げられました處、陛下には「さうですか」と宣まはせられて御覽あらせられました。此衣類は各宮妃殿下が御手づから針をお執り遊ばされた品であると云ふことを御使の方から承はりました。次で玉歩を進ませらるゝ間に私より先日竹田宮妃殿下より衣類を賜はり、尙埼玉縣愛國婦人會支部及靜岡縣より衣類の寄贈を受け又毛布の借入や枕の準備もやつと最近に略ぼ調ひましたので、それ以來大變に綺麗になりましたと申あげました。竹田宮妃殿下御慰問の節には本所の有様が殊に御眼に止まりし趣にて、其後折々衣類や枕の御配慮を受けましたことは實以て感激に堪へない次第であります。國母陛下には老人の多數なのを御眼に止めさせられ、患者大須賀權六並に小態禮太郎に就き「幾つですか」この御下問がありましたので、六十九歳と六十七歳であります、之れが年齢でありますと申して紙の荷札を利用して急に作つた姓名札の數字を指して御示し致しました。「冰の要る様な病人もありませう」とのお尋ねに對し

それも澤山ありますが氷が少いので極く必要な者にだけ與へて居りますと申し上げました。

外傷に繃帯してある患者を御覽になつて、「痛いでせうね泣くやうな者もありますか」このお言葉に對し、小供なども居りますのでそういうふこともありますとお答申しあげました。

外科の重症室と云ふことを申し上げました時、重症といふことには殊に御注意遊ばされた御様子に拜察されました。暫く御見廻しあらせられましたたが、病牀の上に日光の差込み居る處がありましたので「窓かけがありませんねー」このお言葉がありました。窓硝子の破れて居るのに御氣のつかせられたものと拜察いたしました。

外科の治療中御奉迎申し上げた處に御立止まりあらせられ、繃帯交換中の患者佐久田西造(十五才)の手を御覽になつて、「何うしたのですか」このお尋ねがありましたので、火傷でありますと私からお答申しました處、重ねて「手は動きますか」この御下問がありましたので、私から醫員に聽いて動きますとお答へ申しあげました。

之は外科の輕症室であります、傷は相當重くあつても頭部の方であるとか云ふので、歩くことの出来る人はこち

らに居て、外來のやうに出掛けて往つて診て貰ひますと申し上げました。陛下には「ハンドグラス」を以て患者深川かねの名札を能く御覽になり年齢八十六歳と云ふを特に御注視遊ばされ、侍従の方に八十六歳だと云ふ事をお示しになり、前膊の副木繃帯を御覽になつて「どうしたのですか火傷ですか」と御下問がありました。私も之を見て考へて居ります間に、其老婆は折れたのでありますと奉答しましたので、いと懇ろに勞はらせられ老婆の眼には自然と涙が溢れて居りました。

玉歩を進めさせられつゝ、「大勢の間で夜眠れない者もありません」この御言葉を頂きましたので、そふ云ふ人もありますので成る丈け分けてやりたいと思ひますが、此通り大勢の中でありますから充分には出来ませんとお答申しました處、そうであらうこのお言葉がありました。産院を御紹介申上りました時、暫らく御眺めになつて在られましたが、玉歩をそちらへ進ませられ産褥婦渡邊ツイの傍らに初生兒の外小供が二人(四才と二才)居るのを御覽在らせられました時、侍従の方より姉さん達でせうと小供に話掛けられました、陛下も傍らへ進ませられて色々御慰さめの有難き御言葉を賜はりましたので産婦は

感泣して頭を上げ得ませんでした、侍従の方が分婉月日の札に注意されました故、市長より、もう此處で男兒十人、女兒八人生れました、乳の出の悪いものが多くありますと申し上げられました、陛下には「斯うしてあれば仕合ですな、水の中でお産をした人もあるといふではありませんか」とのお言葉がありましたので、最初は混乱の中に種々なことがありまして市役所の庭でも生れましたと申あげました處、「そうであつたでせう」とのお言葉がありました。御還啓に際し特に「病人を成るだけ大切にする様に」とのお言葉を賜はりました時には、一同の者御慈悲の深きに覺へず感涙に咽せびました。此日陛下には日光より御還啓遊ばされ、御疲勞をも御厭ひなく、上野驛より救療病院御巡視の第一として早々當所へ御行啓遊ばされたのであります、御着十二時二十分、御歸還一時十分でありましたから、病室内だけを五十分間に互りて親しく御視察になりました譯で、大御心を注がせられたことは誠に感激に堪へません。殊に御眼に止まりし一々のものが凡て皆優渥なる御言葉として表はれましたことは、皇后陛下の惠風仁雨の如き御高德を拜察するに餘りあること、思はれますので、茲に取敢ず印刷に附し

談 叢

て、陛下の有難き大御心を皆さんにお知らせする次第であります。

東京市池ノ端臨時救療所

所長 田澤 錄 二

コノ行啓記録ハ澄川衛生課長ノ注意ニヨツテ認メタ  
モノデ直ニ印刷ニ附シテ患者一同ニ配布シタモノデ  
アル